

教務だより

2011年11月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

心を決めて、受験に臨もう！

茗溪塾 宇野雅春

秋風が、身にしみる今日この頃です。季節の変わり目で気温の変化も目まぐるしく、体調を崩す生徒も多いようです。中学受験、高校受験、大学受験それぞれに煮つくりを見せてきています。夏ごろにがんばった成果が少しずつですが、出てきているようです。授業への取り組む姿勢は、悪くないと思います。

それぞれの受験で、いまずべきことが違います。焦りは空回りを作ります。無駄なエネルギーに振り回されないことが、重要です。小6生は、不得意をとにかく減らすこと。これは自分でそう思わない限りは非常に非能率的になります。自分で思った瞬間からとても容易なことだと分かるはずなのですが、気がつくのは受験が終わってから...が多いようです。中3は、内申のかかった定期試験の真っ最中。基礎学力を固めるという意味でも大切です。高3は、推薦等で既に合格がでて受験終了者もいる中で、これからの多くの受験生は最終盤の追い込みに入っています。あれこれ悩みながら寒風に吹かれては、気持ちも萎えそうですが、そこは踏ん張ってそれぞれに最善を尽くしてほしいと思います。合格していった生徒達を思い出すと、皆「自立」という言葉に結びつきます。最後は自分の気持ちでひたむきに努力を続けていた気がします。人それぞれ違うので、どのやり方が一番いいのか断定はできませんが、受験生自身が自分で感じ、自分で考えていくあり方が一番効果的で、最後の最後に、自分でつかむものが大きいと思うのです。去年の受験最終盤、千葉県立高校の後期試験の朝の事を思い出します。前期試験で不合格だった生徒たちが、もう後がない最後の試験を戦おうとしていました。前期後期に分かれたことで入試がさらに厳しさを増していました。前期で第一志望を落とした生徒の大半が1ランク落としての受験です。緊張している教え子たちに、握手をしながら色々考えました。高い倍率の中で全員合格はあり得ないことです。結果、一緒に受験した友達の不合格に泣いてしまう生徒もいました。でも終わった後の生徒たちはすがすがしいものでした。自分の事だけでなく人の事まで思いやれる次元にあってこそその合格なのだと思います。結果が出た後は、その結果を受け止めて次に進む、辛いことですが誤魔化さずに自分を見つめることで次の大きな成功につながるはず。でも結果に思いをはせるのはそのときで良いと思います。今一番大切なことは、あれこれ迷わず、ここは「心を決めて受験に臨もう！」ということ。合格体験記の中にこんな一文がありました。

『「楽しんできな。」「うん。全力で楽しんでくる」これが市川中学校の試験会場に入る前、戦場に入る前に交わした母との最後の言葉です。受験とは何か。私はこの問いに対する自己満足できる答をこの会話をした時、持ち合わせていませんでした。正直まだ分からなかったのです。受験というものが。』受験に一歩足を踏み入れた時の小学6年生の女子の感想です。会場で彼女は「殺気あふれる会場」で「襲いかかる悪夢を追い払い」、「全力で入試を楽しみました。」という経験をします。「受験は、人々の人生が交錯する場だと思います。自分の進学したかった学校に入れる私は決して多くはない幸せ者だと思いました。」が受験を終えた後に出した結論です。合格を導いてくれたものの中に勉強を教えてくれた先生以外にも「自立勉強の体制を作ってくれた親、私の国語力を高めてくれた小説、それから運命」に感謝をささげています。自分で感じ、自分で考えて臨めば「受験」自体が新たな成長をもたらしてくれるということではないかと思えます。

この受験の直後、中学生高校生になった元受験生たちが、新しい制服を着る前に「東日本大震災」は起こりました。大学の開講は1カ月以上遅れました。小さな成功を幾つ積み上げても、本当の満足は得られず、次の課題が必ず襲ってきます。でも一つの山を登ることなしには次の山は見えてこないということだと思えます。

今、皆さんは人生での最初の山ともいえる「受験」に向かっています。目の前に目標があることの「喜び」がどんなに大切なことなのかを知って欲しい。そして決して一人ではないことも。それをみんなで乗り越えていくということ。そういう経験が今はとても大切なことに思えます。